



阿部 美智子さん (佐田町)

KOE no KURAこえのくらの常連。施設を訪れる町民や観光客とも気さくにやり取りを交わします。

## いろいろな人がやってきて ほっと一息つける場所

こえのくらオープン当初から、ちょっと座って休憩できる場所、コーヒーを飲んで自分の時間を作る場所として利用しています。観光客も来れば地元の人もある、駅前がいいところに目をつけたと思う。2人は今まで来たこともない大石田町に飛び込んできて、いろいろな挑戦をしている。これは誰にでも出来ることじゃない、とてもすごいこと。

駅で電車から降りてきて、銀山温泉に向かう人の中には大石田に全然興味がない人もたくさんいる。そういう人に対して、ここでは大石田の情報を伝えるんじゃないで、銀山温泉のいいところをどんどん紹介している。それでいい関係が作れると、次の日一泊して戻ってきたときに、駅前がよくしてもらった印象でここに来て、コーヒーを一杯飲んで帰りの電車が来るまで町の中を歩いていく人がいる。大したもんだなあ、町民としてこういうところを見習いたいと思います。

### KOE no KURA こえのくらオープンからの来館数、催し開催数 (2020年1月末まで)

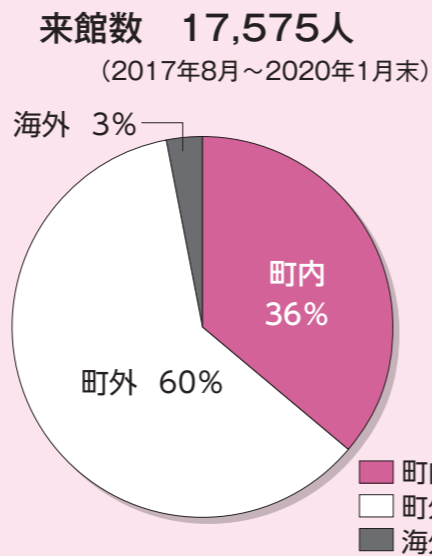
#### 集客型の催し

173回開催  
2,484人参加



#### 作品展示

延べ268名



### こえのくらは2月から大野達也さん、あかねさんが運営しています!

こえのくらは昨年4月に着任した2代目地域おこし協力隊の大野達也さん、あかねさん夫妻が運営を引き継いでいます。

施設の運営に加えて、達也さんは大石田町の魅力を伝えるユーチューバーとして、あかねさんは子育て中のママとして、それぞれの経験と持ち味を生かして活動に取り組んでいます。



## 人と人をつなげる 香坂 明さん、遠藤 舞子さんの3年間

地域にとらわれることなく、町に住む人同士や町外の人との関係をつないできた2人の活動について町の人はどう感じていたのか、活動を見守ってきた方に話を伺いました。



### 2人に刺激を受けた町民は多いと思う

2人が町外から来た人の目線で情報を出し続けたことで、町民が町の良さに気づく、いいきっかけになったと思います。町に暮らしていると、きれいな景色もおいしい食べ物も、当たり前になってしまう。そういった町のよさに気づかないでいる町民は多いと思う。ペそら漬を楽しんでいる様子など、とても新鮮に映りました。

ブログなどのインターネットを駆使しつつ、それでいて顔を合わせた活動を大切にしていたからこそ、町民もすんなり受け入れたんじゃないかな。

それから、こちら側への要望もしっかり伝えてくれるというのいい。言いづらいじゃないですか、そういうのって。私も含め、2人から刺激を受けて自分も何かを発信したいと考えるようになった人は多いんじゃないかなと思います。

こえのくらオープン時に設置したペそら漬呼び方マップ



ペそら漬にも挑戦。我が家自慢のペそら漬コンテストで入賞するほどの腕前に。



高橋 純平さん (小菅)

2人が活動を始めたばかりのころから、地域おこし協力隊フェイスブックなどインターネットを通して交流を重ねています。